

**烏賊** いか 掌を内側にして、五指の指頭を下方にさした手の甲を顎の下につけ、五指をぶらぶらさせる。烏賊の脚を表現したもの。

**意外** 「怪しむ」と同じ手まね。但し？を空間に書くのを省く。「不思議」の手まねにもなる。

**以外** 掌を前に向け、五指の指頭を左にさした右手、掌を内側にし五指の指頭を右にさした左手、両手を互いの手甲で背中合わせにしてから、右手を前方へさつと離す。両のものをはっきり切り離した意味。「別」の手まねにもなる。

**医学** 医——学問。

**怒る** いかむ 憤る いかり 五指を彎曲した両手の指頭を腹部左右に接触させ、腹部の上を掻き廻すように運動させる。腹の中が掻き廻されるような心の状態、怒る心理を表わす。

**遺憾** いひかた 五指の指頭を上にし、掌を左に向

けた右手で右側の頬を打つばかりに、頬と手との間に僅かな隙をおいて、手を忙わしげに左右にこまかく運動させる。「ああ、しまった。残念」と思わず頬へ手をやって、気分のおさまらぬ状態を表わしたもの。

**勢** 握り拳にした手の腕の肘を、力こぶを見せるように縦に曲げる。「力」を表わしたもの。

**生きる** 拳にした両手の腕の肘を横に曲げて左右に張り出す。(「丈夫」の手まね)。

**生き返える** 合掌した両手をそのまま横たえて(死ぬ手まね)から、すぐにもとの手の姿態(合掌)に戻らせて、「生きる」手まをする。

**行く** い 行け い 指頭を上にした人差指を前方、或は左右の何れかの方向に出す(行く)。(向) 下に垂らした手を、前方、或は左右の何れかの方向に出す。

戦いくさ イ「争う」の(イ)と同じ。口人差指一指だけでなく、戦う兵士の復数を意味させるため、五指を多くの剣になぞらえてかち合わせる。

いくつ いくら 親指から順次に五指を折って行く。

○「値代はいくらですか」。親指と人差指で輪はつくり(お金)、次に親指から順次に五指を折って行く。

池 掌を上に向け、五指の指頭を左にさした右手(池の水面)を囲むように、五指の指頭を前方にさし、掌を右に向けた左手を彎曲して(池の堤)右手(水面)の五指をかすかに波打たせる。

いけない 指頭を上にした右手の人差指を、右から左へ鼻の上をさっと切るようにする。「よい」は鼻高を表わすに対して、鼻高を切って表わす心得。

意見 人差指の指頭を、こめかみの上辺りに突き刺すようにつける。少し頭をかしげるがよい。頭の中に考えがあること、「考え」「思う」ともなる。

以後 「後ごで」と同じ手まね。

遺骨 白い布で(人差指で、齒を指し「白」を表わし)首にかけ、胸の前に捧げる身振り。

勇ましい 両肘を張り、両手を拳にして下に向け、胸の前で、交互に前方に往復させる。活発に動作する姿を見せたもので、「活躍」ともなる。

意志 人差指で腹部(心)をさしてから、その手の指頭を前方直角にさして突き進ませる。心の赴くところ、ひたりに進むとの意味。

意地 人差指で腹部(心)をさして、その位置でその手を拳に力強く握りしめる。「心」